

ほん
本のふくぶくろ

ひ がつ にち もく ちゅうかんやす ばしょ としよしつ
日にち：1月15日（木） 中間休み～ 場所：図書室

※^{ちゅうかんやす}中間休みと、^{ひるやす}昼休みと、^{おこな}に行います。

図書室のつくえの上に、「友だち」や「動物」などのテーマが書かれたふくぶくろをなべます。本は2さつずつ入っていますが、どんな本が入っているかは、お楽しみ！今まで自分ではえらばなかった本との新しい出会いがあるかもしれません。

そして、ふくぶくろの中には、本^{ほん}についてのアンケート^{はい}が入^{はい}っています。アンケート^{こた}に答^{こた}えてくれた人^{ひと}は、おみくじ^ひを引^ひくことができますよ。図書室^{としょしつ}でうんだめししてみませんか？

ぜひ、図書室までふくぶくろを見にきてくださいね。

【おやくそく】

- ・読書かばんと、かりていた本と、貸出カードをわすれずに持ってきてください。
- ・図書室までは歩いて来てください。
- ・ふくぶくろは、ひとり1つずつえらびましょう。ふくぶくろは、1・2年生用、3・4年生用、5・6年生用があるので、自分の学年のところからえらんでください。
- ・どのふくぶくろにするか決まったら、カウンターで貸出をしてください。
- ・ふくぶくろを開けるのは、教室にもどってからです。図書室では開けないでください。
- ・ふくぶくろの本は、読み終わったら、図書室に返しにきてください。
- ・(新聞紙のふくろは返さなくてもいいです。)
- ・ふくぶくろの中に、アンケートが入っています。書いてくれた人は図書室に持ってきてください。持ってきてくれた人は、おみくじを引くことができます。

※1月15日分のふくぶくろがなくなったら、次の日から、新しいふくぶくろを
出しますよ。

やわたしりつやわたししょうがっこうとしょしつ
八幡市立八幡小学校図書室

ほんのおたより

(1年生～3年生用)



れいわ ねん がつ か ふゆごう
令和7年12月9日冬号

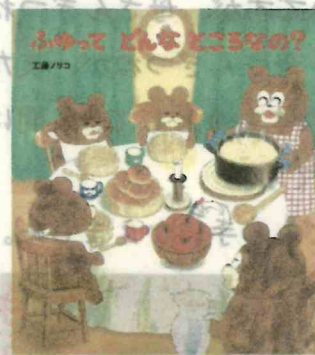
ふゆやす
冬休みに読んでみて！

今回の本のおたよりでは、冬休みにおすすめしたい本をしょうかいしたいと思います。冬休みに
おかわるお正月の本や、寒い冬に心がほっこりと温まるえほん・物語を読んでみませんか？
ご家庭でも、お子さんに本を読んであげたり、いっしょに読書をしたりして、温かい時間をすご
されてみてはいかがでしょうか？

また、3学期のはじめには、本のふくぶくろを用意しています。どんな本と出会えるでしょう
か？楽しみに待っていてくださいね。

えほん『ふゆってどんなことろなの?』 くどう 工藤ノリコ/さく作 がっけん 学研プラス

きっと、^{ふゆ}冬がすきになる



寒い冬がやってくる前に、ごはんをたくさん食べて、歯をみがいて、トイレに行って、パジャマに着がえて、温かいふとんにくるまって、ねむるじゅんびをするクマの3姉弟。冬は、雪がふって、食べ物が少なくなるので、みんなでねむって、温かい春がくるのを待つのです。

ところが、クマの子どもたちは、冬に目をさましてしまいました。まどから外を見てみると、冬にもおいしそうな食べものがあるのを見つけて、外に出かけていきます。アイスクリームの雪だるまや、大きなプリン、ココアのおんせんがあって…。冬にも楽しいことが待っているようですよ。

行事『おせち』 うちだゆみぶん・え 満留邦子/料理 三浦康子/監修 福音館書店



お
せ
ち

1年の始まりにねがいをこめて

みなさんは、お正月に食べるおせちりょうりに、さまざまなねがいがこめられているのを知っていますか？

たとえば、黒豆は、まめまめしくくらしをしますように。えびは、としをとるまで元気でいられますように。ごぼうは、根をはっている

ので、ずっとじょうぶでいられますように。たけのこは、めがでてのびるので、すくすく育って大きくなりますように。このように、1年の始まりに、「今年も1年よい年になりますように。」と、ねがいをこめてつくられているのです。意味を知ると、おせちりょうりを大切に食べたいですね。

また、お重に入れるりょうりのじゅんばんもきちんと決められているので、たしかめてみてください。

そして、表紙のおせちりょうりは、写真のように見えますが、実は、筆の絵でかかれていますよ。ぜひ、手にとってじっくり見てみてくださいね。

えほん『手ぶくろを買いに』 新見南吉/作 松成真理子/絵 岩崎書店

「人間はいいものかしら？」

きつねの親子が住んでいる森に、冬がやってきました。子ぎつねにとっては、はじめての冬です。雪がふりつもる寒い冬の日に、手をつめたそうにする子ぎつねを見て、母さんぎつねは、手ぶくろをかってやろうと思いました。

親子で、手ぶくろが売っているお店がある町まで歩いていくのですが、母さんぎつねは、とちゅうで足が進まなくなってしまう。なぜなら、昔、母さんぎつねが、友だちと、町へ出かけて行った時に、友だちが人間の家からあひるをぬすもうとして、人間に見つかり、さんざん追いかけるというこわい思いをしたからです。

そこで、母さんぎつねは、子ぎつねの手のかたほうを人間の子どもの手にかえました。そして、お店に着いたら、人間の手をさし出して、「この手にちょうどいい手ぶくろをちょうだいって言うんだよ。」と、教えて、子ぎつねに手ぶくろを買いに行かせることにしました。

ところが、子ぎつねは、お店に着くと、人間の手ではなく、まちがえて、きつねの手をさし出してしまふのです。さて、きつねの手を見た人間は、子ぎつねに手ぶくろを売ってくれるのでしょうか？



ものがたり『クレヨンマジック』 舟崎克彦/作 出久根育/絵 鈴木出版



たいくつな1日がワクワクする1日にかわります

雨がふって、家のまどから外をぼんやりとながめている男の子に、「もし、きみがたいくつをしているのなら、いいことを教えてあげましょうか？」という声が聞こえてきました。男の子は、その声の言うとおりにしてみることにしました。

まず、紙とえんぴつを用意して、おまじないの言葉を書き、その紙で紙ひこうきを作ります。そして、まどから紙ひこうきを外にえいっと投げます。すると、ふしぎなクレヨンたちのいる世界が待っていました。

言葉あそびや、2年生で習う九九も出てきて、ゲームをするように楽しく読める本ですよ。男の子といっしょにふしぎな世界をぼうけんしてみましょう！

こころ きもち 『こころのふしぎ たんけんえほん』

ひらきのりこ さく ビーエイチビーけんきゅうじょ
平木典子/作 P H P 研究所

心がモヤモヤした時に読んでみて

みなさんは、うれしかったり、悲しかったり、おこったり、ドキドキしたり、ワクワクしたりと、毎日いろいろな気持ちになりますね。それは、目には見えない心で、いろいろなことを感じているからなのです。心の中はどうなっているのでしょうか？

みんなが、同じ心ではなく、ちがう心を持っているので、友だちとケンカをしたり、悲しくなったり、こまったり、なやんだりして、心がモヤモヤすることもあるかもしれませんね。そんな時は、ぜひ、この本を読んでみてください。

自分の気持ちを相手にどのようにつたえたらよいかや、お友だちをきずつけないようにするにはどんな言葉をつかうとよいかなどが書かれています。

また、だれかに相談したり、自分の気持ちをノートに書いたり、自分のすきなことをしたりと、心を楽にする方ほうものっていますよ。

自分の心もちも、お友だちの心もちも大切にしたいですね。

